

学校自己評価報告書

(平成25年度)

平成26年5月

学校法人電波学園

名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校

評価基準項目担当者

- 基準1 教育理念・目的・育成人材等
校長または教務責任者
- 基準2 学校運営
校長または教務責任者
- 基準3 教育活動
教務責任者
- 基準4 教育成果
教務責任者と就職指導責任者
- 基準5 学生支援
教務責任者と就職指導責任者
- 基準6 教育環境
教務責任者と事務責任者
- 基準7 学生の募集と受け入れ
校長・教務科長と事務責任者
- 基準8 財務
事務責任者
- 基準9 法令等の遵守
校長または教務責任者と事務責任者
- 基準10 社会貢献
教務責任者・各科責任者・事務責任者

学校評価委員会

- | | | |
|-------|-------|---------------|
| 委員長 | 中川 壽夫 | (校長) |
| 総括責任者 | 伊藤 洋子 | (教務科長) |
| 副委員長 | 玉澤 直久 | (NCFL 経営戦略室長) |
| 委員 | 市石 浩久 | (国際ホテル科科長) |
| | 中村 伸行 | (事務長) |
| | 林 久實 | (教務主任) |
| | 菱川 大朗 | (広報課) |

目次（点検中項目一覧）

基準1 教育理念・目的・育成人材像等

- 【1-1】 理念・目的・育成人材像は定められているか P. 4
- 【1-2】 学校の特色は何か P. 4
- 【1-3】 学校の将来構想を抱いているか P. 4

基準2 学校運営

- 【2-4】 運営方針は定められているか P. 5
- 【2-5】 事業計画は定められているか P. 5
- 【2-6】 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか P. 5
- 【2-7】 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか P. 5
- 【2-8】 意思決定システムは確立されているか P. 6
- 【2-9】 情報システム化等による業務の効率化が図られているか P. 6

基準3 教育活動

- 【3-10】 各学科の教育目標・育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか P. 7
- 【3-11】 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか P. 7
- 【3-12】 カリキュラムは体系的に編成されているか P. 7
- 【3-13】 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか P. 7
- 【3-14】 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか P. 7
- 【3-15】 授業評価の実施・評価体制はあるか P. 8
- 【3-16】 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか P. 8
- 【3-17】 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか P. 8
- 【3-18】 資格取得の指導体制はあるか P. 8

基準4 教育成果

- 【4-19】 就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか P. 9
- 【4-20】 資格取得率の向上が図られているか P. 9
- 【4-21】 退学率の低減が図られているか P. 9
- 【4-22】 卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか P. 10

基準5 学生支援

- 【5 - 23】 就職に関する体制は整備されているか P. 11
- 【5 - 24】 学生相談に関する体制は整備されているか P. 11
- 【5 - 25】 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか P. 11
- 【5 - 26】 学生の健康管理を担う組織体制はあるか P. 12
- 【5 - 27】 課外活動に対する支援体制は整備されているか P. 12
- 【5 - 28】 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか P. 12
- 【5 - 29】 保護者と適切に連携しているか P. 12
- 【5 - 30】 卒業生への支援体制はあるか P. 12

基準6 教育環境

- 【6 - 31】 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか P. 13
- 【6 - 32】 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか P. 13
- 【6 - 33】 防災に対する体制は整備されているか P. 13

基準7 学生の募集と受け入れ

- 【7 - 34】 学生募集活動は、適正に行われているか P. 14
- 【7 - 35】 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか P. 14
- 【7 - 36】 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか P. 14
- 【7 - 37】 学納金は妥当なものとなっているか P. 14

基準8 財務

- 【8 - 38】 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか P. 16
- 【8 - 39】 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか P. 16
- 【8 - 40】 財務について会計監査が適正に行われているか P. 16
- 【8 - 41】 財務情報公開の体制整備はできているか P. 16

基準9 法令等の遵守

- 【9 - 42】 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか P. 17
- 【9 - 43】 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか P. 17
- 【9 - 44】 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか P. 17
- 【9 - 45】 自己点検・自己評価結果を公開しているか P. 17

基準10 社会貢献

- 【10 - 46】 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか P. 18
- 【10 - 47】 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか P. 18

基準 1 教育理念・目的・育成人材像等

点検中項目【1-1】 理念・目的・育成人材像は定められているか

本校の教育理念は一貫して以下のとおり明確にしている。

1. 本学園の建学の精神「社会から喜ばれる知識と技術を持ち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め、科学技術・文化の発展に貢献する」
2. 知識・技能といった学生個々の能力を引き上げると共に、品格とホスピタリティ精神を兼ね備えた魅力ある人材を育成する。
3. 「夢をかたちに」を実現する。

『笑顔で全力疾走』をスローガンにして、育成すべき人材像として、校訓である「国際性」「協調性」「積極性」を挙げており、それらを達成するための教育活動を始めた各種施策を推進している。

以上の理念は全教職員および全学生に周知しており、学内外に向けてもメッセージとして発信している。なお、役職者会議において、時代の変化に対応した見直し等も行っている。

点検中項目【1-2】 学校の特徴は何か

本校の特徴として、文化教養専門課程、商業実務専門課程の2つの課程がある。

本校の教育目的は、社会から喜ばれる知識と技術を持ち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成することであり、エアライン・ブライダル・ホテル・トラベル・鉄道といった語学を活かして活躍するサービス業に従事する人材を育成する。

1. 語学系の学科は、カリキュラム作成の際、それぞれの該当する授業科目として「英検対策」、「英会話」などの語学科目を軸とし、「マナー接遇」「就職対策」にも力を注ぎ、大人としての人生観、職業観を身に付け、社会から歓迎される人柄の育成を本校独自の特色とし、訴求している。今後もより一層のスキルアップを目指したい。
2. ホテル観光系の学科は、ホテル・ブライダル・観光業界への理解度向上を目的とした「インターンシップ制度」を採り入れているため、それが優秀な人材育成に結び付き、業界内での認知度は高い。

点検中項目【1-3】 学校の将来構想を抱いているか

従来からの学科構成・新設学科設置計画、コンピュータ設備等の更新計画等の将来計画を更新し、学校の理念、教育目標の実現をめざしている。

さらに、平成22年6月末に完成した新校舎（実習棟）で実践的な実習、教育内容の充実を図るとともに、時代のニーズにあった中・長期的構想に基づいた新設学科の提案など、次世代の構想を図っていきたい。

基準 2 学校運営

点検中項目【2-4】 運営方針は定められているか

各年度当初に開催される「年度始め式」において理事長より学園の年度目標が発表され、それを受けて校長が本校の年度の目標を設定し、部科長会議・科会議などの業務計画において具体化される。

日常業務においては「学校組織図」「職務分掌表」の策定や、「学園運営委員会」「将来構想委員会」「教務委員会」「広報委員会」「就職委員会」「事務委員会」など各委員会が定期的に行われ、運営方針に沿った各業務や教育活動が報告され、また、見直しが検討され、議事録に記録されている。

点検中項目【2-5】 事業計画は定められているか

年度ごとに各部署で事業計画を策定している。事業計画は校長、理事会、理事長の承認を得て職員会議において教職員に発表され、周知される。

執行状況は各部署が管理を行い、年度末に点検（チェック）し、改善点を検討（アクション）し、次年度の計画に反映させている。業務計画作成にあたっては学生や業界のニーズを踏まえて取り組むべき施策や解決すべき課題を明確にしている。

点検中項目【2-6】 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか

運営組織については「組織図」「職務分掌表」において明確に示されている。

教務、各学科、事務、就職の各部署は、常に業務計画に従ってそれぞれの業務を遂行し、かつ有機的に連携し、機能している。

「理事会」「評議員会」は学校法人運営について定めた「寄附行為」により、「学園運営委員会」「将来構想委員会」は学園組織図により明確に位置づけられ、定期的に行われている。

以上のような組織運営体制は、効率的であると判断できる。また、重要案件については、担当部署において「相談事項」として書類を作成し、理事長決裁後、保管している。

点検中項目【2-7】 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

教職員採用について具体的な中・長期計画に基づいて募集を行っている結果、後期より1名（国際エアライン科）採用した。

人事考課については、評価観点などを公開して実施している。昇進・昇格についての基準は人事評価に基づいて決定され、業務の遂行能力、負担度、成果に見合った給与制度を設けている。

賃金については、電波学園グループユニオン（教職員組合）と協議の上「給与規程」

に基づいて支給し、標準給与等の概要は教職員に周知している。

点検中項目【2-8】	意思決定システムは確立されているか
-------------------	--------------------------

「組織規程」に業務内容・範囲の基本が示されており、各事業の立案や報告は主管部署の責任において、定められたフォーマットの「相談事項」として文書化される。

それらは、校長、理事長の承認を得て、確定事項となる。

また、特に重要な案件や新規案件、大規模な変更があった事項等は、理事会において審議され、結果が確定する。その結果については関係部署に周知される。

点検中項目【2-9】	情報システム化等による業務の効率化が図られているか
-------------------	----------------------------------

本校ではコンピュータによる情報システムを導入し、業務の効率化が図られている。情報システムは主に5つの機能により構成されている。

1. 学生のデータ管理として、学籍・成績・出欠等の学籍管理システム
2. 願書資料請求者の管理として、入学希望者等の管理システム
3. 事務局における会計システム
4. 情報の共有をはかるためにネットの機能を有効に活用した情報系システム
5. ネット上での学生と教員の情報伝達等の効率化を図るための教育系システム

それぞれのネットワークは、情報セキュリティ上の理由で物理的に切り分けられている。ただし、学籍関連管理と入学希望者管理は相互に連携を取る仕組みとなっており、必要に応じて汎用アプリケーションで加工可能となっているため、業務が効率的に運用できる。

基準3 教育活動

点検中項目【3-10】	各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか
-------------	--

学園建学の精神に基づき、社会から喜ばれる知識と技術を持ち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成することを教育目標としている。

本校は語学系の学校として、英語力の向上を全学科で重視し、また、「語学力+人柄教育+専門スキル」の育成目標を掲げ、その上で専門性や人格形成としての「人間力」を養うことを重視している。

企業が求める人材ニーズの把握に取り組み、それに応じたカリキュラム作成の際、可能な限り具体的な人材像を表現するよう図っている。

点検中項目【3-11】	修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか
-------------	----------------------------

各業界のニーズを把握し、即戦力となる人材を業界に送るために、語学専門学校という特色を持たせた職業系の学科を設置し、専門スキルを高めている。

また、学科毎に資格・検定などの到達目標を明示している。

職業観を芽生えさせ、就職に対応することを主眼とした学内企業説明会、面接特訓など徹底した就職対策（キャリアガイダンス）を行っている。

なお、業界が求める語学能力が英検2級以上、TOEIC650点以上など高度化しているため、年間を通して、英語の補習などの対策を実施している。

点検中項目【3-12】	カリキュラムは体系的に編成されているか
-------------	---------------------

カリキュラムについては、平成25年度中に職業実践専門課程申請に伴い、各科毎に教育課程編成委員会を設置し、年2回（前後期1回ずつ）検討し、必要に応じて改善する仕組みができています。

なお、カリキュラムは前期、後期の2期制となっている。

点検中項目【3-13】	学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか
-------------	---------------------------------

全体として英語を主に、各学科、コースの専門教科の時間を効果的に活用している。

また、インターンシップを通じた課外学習や、授業後には検定試験対策や就職試験対策の特別講座を設けている。

毎年度立案されたカリキュラムは、年間の授業進行スケジュール、時間配分、使用教材、利用施設等詳細な検討をし、毎年作成するシラバスに反映している。

点検中項目【3-1 4】	キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか
-----------------	-------------------------------------

本校の学生のほとんどが、エアライン業界、ホテル業界、ブライダル業界などのサービス業に携わる者たちであり、就職面接時に問われるのは「職業意識・職業観」や「人生観」である。本校では、職業人になるという意識や態度を涵養し、本校で学んだ専門知識や技術を実際の職場で生かすためのコミュニケーション力や、問題解決力などを育成する「キャリア教育」を一般教養等の中で行っている。

点検中項目【3-1 5】	授業評価の実施・評価体制はあるか
-----------------	------------------

日頃の学校生活における授業内容や学生たちの状況等については、日直が記入する学級日誌や、校長、各科長、経営戦略室長が随時授業巡回を行い、その把握に努めている。また、半期終了毎に学生による授業評価アンケートを実施し、個々の結果は、カリキュラムの見直し、特に学生が理解するためにより多くの時間が必要な項目等には授業時間を多くとるなど、授業方法の改善に活用し、今後の授業のレベルアップを図り、教育活動全般に反映させる仕組みとなっている。

点検中項目【3-1 6】	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
-----------------	------------------------------------

育成目標に合わせた教員を配備するために、専門分野における実務経験豊かな教員を確保し、不足分については非常勤講師を確保するなど業界のニーズに対応している。教員の採用にあたっては、履歴書、職務経歴書等の提出書類を精査するとともに、面接時に十分な確認を行い、入社後はOJTにより授業内容に十分な技能レベルまで向上出来るように指導している。しかし、採用後、期待の成果を出せないため退職する者もあり、25年度は採用前に十分時間をかけて本校教員としての適性の有無等を把握した上で、10月からの採用とした。また、専門性向上のための体系的な研修制度や研究助成制度についても検討中であり、26年度には具体化する予定である。

点検中項目【3-1 7】	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか
-----------------	------------------------

成績の評価は出席率が5分の4以上であることが条件となっており、定期試験成績によりS、A、B、C、Dの5段階に分けて評価する。また、早期入社やインターンシップなどで履修することが困難な場合は、所定のレポート課題と試験により評価している。

成績評価の方法や出席率等の条件は、年度初めに全学生に配布する「学生便覧」に、進級、卒業判定の方法、認定基準等を明示している。

点検中項目【3-1 8】	資格取得の指導体制はあるか
-----------------	---------------

全学科において語学教育を重視しているため、実用英語技能検定・TOEIC、中国語検定の取得を奨励している。語学以外の資格試験対策としては、秘書技能検定、レストランサービス技能検定、旅行業務取扱管理者、サービス介助士など授業内もしくは検定試験前に合格対策集中講座にて特別指導を行っている。これらの資格は各業界に就職する際、必要条件の1つになっている場合がある。

基準4 教育成果

点検中項目【4-19】	就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか
--------------------	--

本校では、担任制を導入しており、校長、各科長、担任等がきめ細かい就職指導を行っている。就職担当者は、求人への依頼や企業展の告知、求人票、内定率の管理を行い、全体の就職をサポートしているが、実質的には各担任が各クラスの完全就職指導を行っている。

卒業生の就職先の情報や就職活動の資料を各教室にあるファイル等で情報を共有し、就職や大学編入、留学に関する相談や情報提供、企業説明会、卒業生の訪問等の取り組みは、それぞれの学生のニーズに対応して就職の支援を行い就職率の向上に努めている。

大学編入、留学を希望する学生も何名かいるため、過去の実績など資料を揃えて指導にあたっている。就職を希望している学生は100%の内定実績を挙げている。

点検中項目【4-20】	資格取得率の向上が図られているか
--------------------	-------------------------

本校学生は、「英語力＋専門スキル」という方針のもと、英語関連の資格取得を目標としている。語学力は志望する企業の応募条件にもなっており、最低、英検2級合格を目指している。実用英語技能検定に関しては、1次（筆記）、2次（面接）にいたるまで語学系の教員により英検補習を行い、合格率向上を図っている。

また、推奨している秘書技能検定においては、授業＋検定試験2週間前からの集中対策講座を実施し、準1級の取得を目指し、前年度に比して若干落ちたものの、全国平均28.8%に対し、46.4%と依然高い合格実績を挙げている。

その他、レストランサービス技能検定や旅行業務取扱管理者、サービス介助士、中国語検定など業界の専門知識を有した資格に関しても特別補講を実施し、取得支援を行っている。

*英語学習は全学生に課しているため、現在の取得率に満足することなく、実用英語技能検定試験実施日の2週間前に英検強化週間とするなど、資格取得の指導に努力をし、全体的なレベルアップを図っている。

点検中項目【4-21】	退学率の低減が図られているか
--------------------	-----------------------

女子学生が多く、退学率の低減を図るため、女性教員をクラス担任に配置し、学生

個々の状況の的確な把握や、日々の出席状況の把握、問題の早期発見等を行っている。

また、こころの病気による不登校や家庭の事情、進路の不安などを訴える学生の増加に対応し、スクールカウンセラー（女性）を配置し、カウンセリングも行っている。

本校の場合、金銭的理由（学費困難）による退学が多く、恒学基金や校友会奨学金制度をフルに活用し、金銭的な理由による退学を阻止する努力、支援を引き続き行っていきたい。

点検中項目【４－２ ２】	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
-------------------------	-----------------------------------

卒業生で組織する「名古屋外語専門学校校友会」を設立し、組織的な活動の支援を強化し、また、その把握に努めている。

平成１９年度から役員組織を強化し、校友会奨学金制度や創立２０周年記念事業の実施など、校友会の活動報告を受けている。

また、業界で活躍している卒業生が頻繁に来校し、教職員、在校生に対して、近況や業界の現状などの報告があり、常に最新の業界の状況は把握できている。

卒業生や在学生の社会的な活動状況等については、学校案内パンフレット、ホームページ、各種イベントで紹介し、入学希望者の参考になっている。

毎年、業界で活躍している卒業生を招いて、エアライン業界セミナーやホテル業界セミナー、ブライダル業界セミナーを実施し、彼らの活躍状況等は把握出来ている。

今後は、校友会との協力関係を促進し、卒業生に対して本校の現状等情報提供をさらに活性化する目的で、本校ホームページ内校友会関連のページをさらに充実させたい。

また、教職員が各自知り得ている情報や校友会から提供される情報を一元管理する体制を構築し、在学生や入学希望者への有益な情報提供を進めたい。

基準5 学生支援

点検中項目【5-23】	就職に関する体制は整備されているか
--------------------	--------------------------

本校では、就職指導は校長、各科長、担任等で担当し、進学、留学指導は編入担当職員が担当している。それぞれの担当部署では資料や情報を提供し、さらにスクールカウンセラーが進路における心の悩みの相談に応じる。

また、各教室では求人ファイルが常時、閲覧が出来るようになっており、卒業生に対しての再就職支援も行っている。

内容は多岐にわたり、2月中旬に就職進学キャリアガイダンスを実施し、就職、進学に対する意識付け、就職マニュアル・マナー講座、模擬面接、個別面談、希望者対象のインターンシップ等を行い、希望職種への就職や進学を目指す。

また、国際エアライン科の学生が希望する航空業界は通年採用のため、本校では年間を通して就職対策の補講を授業後や春休み、夏休み期間中でも実施している。

点検中項目【5-24】	学生相談に関する体制は整備されているか
--------------------	----------------------------

通常、教務科長、担任が様々な学生相談に応じる。また、状況によってスクールカウンセラーに引き継ぎ、教務科長、担任では対応できない精神的な悩みに対応する。

学内掲示板にスクールカウンセラーのメールアドレスを公開し、学生が直接、スクールカウンセラーと予約を取っているが、カウンセラーの守秘義務は徹底されている。

1号館には、カウンセリングルームや個人面談室などを設置し、きめ細かいメンタルヘルスケアを実施している。

点検中項目【5-25】	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか
--------------------	----------------------------------

経済的支援が必要な学生に対しては、日本学生支援機構、国の教育ローンなどの公的制度の活用を奨励している。なお、災害時など緊急の際は、日本学生支援機構の緊急採用を学生に周知している。

出願時には電波学園ありがとう奨学生試験（特待生・貸費生）、2年次進級時に学園が募集する恒学基金、校友会が募集する校友会奨学金など奨学金制度を設けている。

また、ウエスティンナゴヤキャッスルと提携し、ホテル観光科学生を対象にホテル

委託奨学生通学社員制度を設けており、平成25年度は1年生1名が活用している。

なお、経済的な理由により授業料等の一括納付が困難な学生については、相談の上、学費の分納、延納にも応じている。

近年、経済状況により、経済的理由による退学者が増加の傾向にあり、上記のような施策の強化が必要である。

点検中項目【5-26】	学生の健康管理を担う組織体制はあるか
--------------------	---------------------------

学校保健安全法に従い、毎年度4月に定期健康診断を実施している。定期健康診断は、法人事務局が定める医療機関に委託し、結果は学生に配付している。

学生からの健康上の相談や、学内での発病、突発的な事故、ケガなどの際は担当の教職員が適切な対応を行えるよう連絡、連携体制を整備している。

流行の病気（インフルエンザ等）に対しては予防接種を勧め、状況に応じて出校停止や、休講とする体制をとっている。玄関先には消毒液を常備し、インフルエンザ予防を継続していく。また、AEDや担架を設置しており、教職員への使用方法の研修も実施している。

点検中項目【5-27】	課外活動に対する支援体制は整備されているか
--------------------	------------------------------

充実した学生生活を送るためには、課外活動は不可欠なものであり、本校では国際エアライン科の学生を中心とした歌のサークル「青春ガールズクワイア」が活発な課外活動を行っている。また、英語科学生有志が授業後バスケットボールを楽しむなど、本校としても課外活動を積極的に支援している。

点検中項目【5-28】	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか
--------------------	---------------------------------

大久手寮は老朽化に伴い、平成22年度末に閉鎖したが、平成23年度、覚王山ハイツを改装し、平成24年度から学生寮として活用している。また、学校から通学圏内の民間のアパートや学生会館、学生マンションなどを、斡旋業者を通じて学生に紹介している。

点検中項目【5-29】	保護者と適切に連携しているか
--------------------	-----------------------

担任が学生の状況をチェックし、必要に応じて保護者との連絡を取っており、心の問題を抱える学生に対しては保護者もカウンセリングを受けることができる体制を整えている。また、保護者からの要望や疑問に関しては、教務科長、経営戦略室長、担任が対処し、必要に応じて校長が対応する。また、25年度より学園合同の教育懇談

会にも積極的に参加し、遠隔地の保護者とのコミュニケーションを密にしている。

点検中項目【5-30】	卒業生への支援体制はあるか
--------------------	----------------------

『名古屋外語専門学校校友会』が卒業生の近況・活動の把握に努めているが、2900名を越える卒業生のため、個人の近況・活動を把握しきれていないのが現状である。校友会では毎年度の役員会の開催、在学生への校友会奨学金や学校行事の援助等が主な事業であるが、今後は卒業生向けホームページの開設、情報メールマガジンの配信をするなど、運営・情報提供を行っていききたい。

キャリアサポートとして就職指導室や電波学園グループアイテックと連携をとり、卒業生への再就職支援を行っていききたい。

基準6 教育環境

点検中項目【6-31】	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
--------------------	---

平成22年6月、全国No.1の規模の施設、設備を誇る実習棟（1号館）が完成、より実践的な実務実習ができる実習教室を設置している。

2F：モックアップ実習室・エアポート実習室

3F：トラベルカウンター実習室・マナートレーニング実習室・パソコン実習室

4F：レストランバーカウンター実習室・ベッドメイキング実習室・ゲストルーム
英会話実習室（3室）

5F：バンケット実習室・フロント実習スペース・ブライダルサロン・チャペル
パウダー実習室・衣装室

6F：HALL・音楽スタジオ

以上の施設があり、また、普通教室のある各階には、学生が休憩や歓談等出来るスペースである「学生ロビー」もあり、有効に活用されている。

点検中項目【6-32】	学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
--------------------	---

全学科が学外実習を取り入れており、インターンシップは帝国ホテル・リゾートトラストなど一流ホテルを主にインターンシップを実施している。

TOEICスコアアップを目的に、フィリピン・セブ島での短期の語学留学も、英語科・国際エアライン科の希望者を対象に参加できる体制となっている。

平成25年度は、国際エアライン科がフィリピン研修旅行に参加し、マニラにあるフィリピン航空の訓練センターでの研修や各種ボランティア活動を行った。また、英語科はニューメキシコ州立大学へ2週間の短期留学参加、ブライダル科と国際ホテル科はフランス、イタリアへ行き、パリの教会にて模擬結婚式を行ったり、パリの4つ星ホテルの施設内見学等の研修を行った。

点検中項目【6-33】	防災に対する体制は整備されているか
--------------------	--------------------------

本校では、毎年学生と教職員に対する防災避難訓練を計画、実施している。

広域災害等緊急時における避難場所や誘導方法、役割分担などは教職員に周知している。また、消防計画に基づく体制作りも出来ており、毎年、校内の放送設備・消防設備点検を実施し、万が一に備えている。

学生全員が専修学校保険に加入しており、登下校時、校内での事故はもちろん、学外活動、研修旅行等、学外で活動する場合も含め、万が一に備え、対応している。

基準7 学生の募集と受け入れ

点検中項目【7-34】	学生募集活動は、適正に行われているか
--------------------	---------------------------

(社)愛知県専修学校各種学校協会が定める「入学願書受付に関する確認事項」を遵守し、学生募集活動を行っている。

学生募集広報活動において出稿内容や説明表現については、その真実性、明瞭性、公平性、法令遵守等について、担当する入学相談担当が常時十分な配慮を行うとともに、入学希望者に十分な判断材料を提供できるよう実施している。それらは稟議を経て決裁しているものであり、学内でのチェック体制は整備されている。

個人情報の記載もあり、個人情報保護法に基づき、同意を得ている。

募集費用については、経費効率を踏まえて学園各校とのスケールメリットを活かした広報活動を行っている。

学校案内書等広報やウェブサイトについては、来校者アンケートの実施やウェブアクセス解析などにより客観的な意見や希望者の動向を分析し、競合他校の調査についても可能な限り実施して、適切かつ効果的な広報を行っている。

点検中項目【7-35】	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
--------------------	------------------------------------

就職実績や資格の合格実績等の教育成果は、毎年度データとして把握し、入学希望者の参考になる情報提供という観点から、学校案内やホームページ等に正確に掲載している。特に就職実績は入学希望者の関心が高く、学生募集上も重要な要因と認識している。

点検中項目【7-36】	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか
--------------------	-----------------------------------

提出書類の願書と調査書・成績証明書の内容などにより、教務による書類審査及び学科担当者等による面接試験等を経て、最終の可否判定は校長が行う。

なお、面接担当者は、各科責任者及び教務科の中から複数を配置し、偏りのない公平な判定が行われるように注意を払っている。また、学科別の入学者推移等のデータは、今後の学生募集や学科編成の資料とすべく記録として保管している。

点検中項目【7-3 7】	学納金は妥当なものとなっているか
-------------------------	-------------------------

社会情勢、経済情勢の変化に伴い、また新校舎でのさらなる質の高い教育実施のため、平成22年度生より学費の変更を行った。法人本部決裁の後に、募集要項等へ記載している。関東圏、関西圏、中京圏など地域別の動向、同種他校の学納金動向を参考とし、保護者の経済的負担も考慮しながら、毎年度見直しの検討が必要と考えている。学納金および奨学金制度、学費減免制度は、社会情勢を踏まえて検討している。

案は学内での審議後、法人事務局が収支バランスの確認を行い、評議員会並びに理事会での審議を経て決定される。

基準8 財務

点検中項目【8-3 8】	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
-------------------------	---------------------------------

学校運営にとって、財政基盤の安定確保は最重要課題である。

現時点では安定化に向かいつつあるが、より盤石とするために、中長期計画をしっかりと立て財務基盤のさらなる安定化を目指していく。

ここ数年、入学者数が増えていることに伴い、在学生数増加による学納金等の増収があるため、今年度は黒字となった。

よって、現時点では安定しているといえる。

点検中項目【8-3 9】	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
-------------------------	---------------------------------

予算の決定は、以下のようなプロセスで行われる。

1. 各部署による決算見通しと予算要求書の提出
2. 前年度の総括、新規事業の概要、業務計画と予算の関連性等の説明
3. 学校全体の予算見込みの作成（見込み学生数をもとに収支等の検討）
4. 各部署から理事への予算案説明
5. 各部署との折衝（不必要、不明瞭、不確定項目の質疑や調整）
6. 予算案完成
7. 法人事務局の決議
8. 評議員会、理事会の決議

また、予算の執行管理はルール化されており、各部署において厳密に管理される。年度途中で変更すべき理由が生じた際は、書面で決裁を得る。

点検中項目【8-40】	財務について会計監査が適正に行われているか
--------------------	------------------------------

外部より、公認会計士2名の指導を受けながら会計処理を行った上で、本法人の監事2名による監査を受けている。

点検中項目【8-41】	財務情報公開の体制整備はできているか
--------------------	---------------------------

私立学校法に従って、当該年度の財務諸表及び事業報告書を、毎年5月末までに作成し、理事会の決議を経て、学園本部に常備し閲覧できるようにしている。

なお、財務情報（資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表・財産目録・監査報告書）は学園のWebサイトにて、公開している。

基準9 法令等の遵守

点検中項目【9-42】	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
--------------------	----------------------------------

学校教育法、専修学校設置基準、関係法令に基づき運営しており、顧問弁護士と契約をし、随時相談可能となっている。

また、各種行政指導や所轄省庁からの通知などは、各部署に回覧し周知するとともに、特に重要な案件については対応を役職者会議等で協議している。

法令や設置基準を遵守するという方針・姿勢を、教職員及び学生に対して周知徹底を図るなどの啓発活動を実施している。

点検中項目【9-43】	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
--------------------	-----------------------------------

「プライバシーポリシー」および「個人情報の取扱いについて」を、現在もオフィシャルホームページへの掲載により、継続的に明示している。

学内の体制としては「個人情報管理業務運用基準」を作成し、教職員に対して説明会を実施しており、職員の新規採用の際は、その都度実施している。

また、人権擁護・個人情報管理委員会を常時設置し、個人情報の管理状況の確認や教職員への啓発活動を実施している。

点検中項目【9-44】	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか
--------------------	-----------------------------------

自己点検については平成21年度に第1回評価に着手した。自己点検・自己評価をベースに改善すべき事案については、教員としての力量向上のための担任業務研修会

を実施するなど、実現可能なことから順次、改善に取り組んでいる。

実施体制として、着手当初より校長を委員長とする学校評価委員会を組織し、教員および各部署の職員が委員となり、全学的かつ重要な業務と位置付けている。

点検中項目【9-45】	自己点検・自己評価結果を公開しているか
--------------------	----------------------------

自己点検・自己評価結果については、平成25年度職業実践専門課程申請時に学校関係者評価委員へ配付するとともに、本校ホームページ上に掲載し広く公開している。

基準10 社会貢献

点検中項目【10-46】	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか
---------------------	-----------------------------------

平成23年度に電波学園60周年記念事業として始まった社会貢献事業を、平成25年度も引き続き以下のように実施した。

- 1) フィリピン研修旅行にて孤児院などを表敬訪問し、交流・寄付を実施。
- 2) エコキャップの回収や今池地区のクリーンアップ清掃活動を学生・教職員で実施。
- 3) 愛知県赤十字血液センターの協力の下、献血を実施。

さらに、例年に引き続き以下のような社会貢献を実施した。

- 4) 実用英語検定2次面接試験会場として、検定協会を通じて一般開放。
- 5) 今池地区の地元商店街組合の賛助会員となり、会員企業との連携による活動を行っている。
- 6) 地球温暖化対策の1つとして、省資源・省エネルギー対策を積極的に実行する。冷房28℃、暖房20℃エアコン室温設定や、夏季クールビズの実行。
- 7) 環境問題に対する啓発活動の一環として、ホテル観光科2年生に対し、ISO14001環境マネジメントシステムの授業を実施した。

今後、附帯教育事業として、雇用促進事業や一般に向けての市民講座などの教育資源、施設を活用した社会貢献となる企画運営を検討していきたい。

また、25年度中に1号館1Fのオープンテラスを地域住民の憩いの場として開放する予定であったが、実現できなかった。よって、次年度は解放する曜日や時間帯等を設定し、試行したい。

点検中項目【10-47】	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
--------------	------------------------

学校としては、ボランティア募集の要請があれば、積極的に学生たちに紹介して有志を募り、意欲ある学生については支援しているが、それぞれの活動については授業や就職活動等に支障がないよう、担任や担当教員が必要に応じて管理業務を行っている。その結果、英語科学生を中心に、夏休み中の子供たちの林間学校ボランティアや子供たちと遊びながら英語を学んでもらおうといった主旨のボランティア活動にも積極的に参加するようになった。今後は学校としてもより一層啓発活動を積極的に実施したい。